



麻酔を受ける患者さんへ

麻酔科

奥山 亮介

手術室で外科的治療を受けられる場合、痛みをはじめとした侵襲を伴うことがほとんどです。麻酔はこれらの侵襲から患者さんを守るために行われ、その手術の性質や患者さんの全身状態に鑑み麻酔の種類を選択します。

今回はこの麻酔の種類に焦点を当て、お話いたします。

◎全身麻酔

麻酔科医が手術室で麻酔管理を行う場合の多くで選択される麻酔法です。

複数の麻酔薬を用いて痛みとともに、意識も取り去り、体の動きも抑制します。

まず点滴から麻酔薬を投与し、その後は常に麻酔薬が投与された状態を維持します。

そのため「麻酔がきかない」ということはなく、「寝相が悪い」とおっしゃる方もおられますが、そのようなご心配も基本的にございませぬ。

◎局所麻酔

①脊髄くも膜下麻酔

いわゆる「脊椎麻酔」、「腰椎麻酔」、「下半身の麻酔」と称されますが、正しくは斯くの如く称します。手術の部位が臍よりも足側となる手術に適応され、外科的治療としての手術のみならず、お産の帝王切開にも適応されます。

②硬膜外麻酔

脊椎(いわゆる背骨)のなかの空洞へカテーテルと称する微細な管を挿入します。その空洞には脊髄という神経が走行し、カテーテルから持続的に局所麻酔薬を脊髄の近傍へ撒布することにより手術後の痛みを抑えるという役割を果たします。全身麻酔や脊髄くも膜下麻酔と併用されることが多く、おもに胸や腹の手術が適応ですが、時に足の手術に適応されることもあります。

③末梢神経ブロック

体表の近くを走行する神経の近傍へ局所麻酔薬を撒布し、直接手術操作の痛みをとる方法です。透析用の血管の造設や骨折の整復術が主ですが、時には硬膜外麻酔の代替として用いられることもあります。

※麻酔について疑問等ございましたら麻酔科医の外来、病棟訪問の際に何なりとお尋ねください。

